

## 令和2年度第1回学校運営協議会 概要

嶺北高等学校

日 時 令和2年7月10日(金) 18:00~20:00

会 場 嶺北高等学校 第一会議室

### ◇委員名簿

No.	区 分	氏 名	出欠	No.	区 分	氏 名	出欠
1	学校関係者	山田 憲昭	○	6	地域住民	高橋 清人	○
2	保 護 者	古谷 雅之	○	7	地域住民	徳橋 正人	○
3	学校関係者	岩本 誠生	○	8	地域住民	山下 由子	○
4	学校関係者	高石 清賢	○	9	地域住民	宮本 久義	
5	学校関係者	松岡 寛	○	10	地域住民	山首 尚子	○

- 1 委員委嘱
- 2 開会行事
- 3 会長選出

設置等に関する規則第6条に従い互選によって、会長に 徳橋 正人 氏を選出した。

- 4 協 議

学校からの説明事項は学校経営計画(事務局)と「嶺北探究」(総務連携部)の2点。委員による協議では以下の質疑応答や意見交換が行われた。

#### ○学校経営計画

##### 【徳橋委員】

- ・学校経営計画の「目指すべき姿」は各学校で独自のものか。

##### 【事務局】

- ・各学校でそれぞれ独自の学校像と生徒像を「目指すべき姿」として設定している。

##### 【岩本委員】

- ・今春、連携中からの志願者で不合格となった者がいる。県立高校と町立中学校という設置者の違いがある中での連携という事情もあるだろうが、中高一貫体制であるにもかかわらず必ずしも全員が高校入学とな

らないことは問題と考える。地域が応援する中で水を差した印象は拭えない。次年度以降の方針について学校の見解を求める。

**【山田委員】**

- ・現状の制度に従った選抜である。一方で、全員を受け入れて6年間しっかりと教育するという気持ちや考え方には賛同する。それには入試のあり方を見直さなくてはならない。中学校との議論も必要になってくる。水を差したような結果になってしまったことは申し訳ないが、現段階では全ての生徒が制限なく6年間過ごせるという制度になっていない。提案があれば真摯に承り県教委に相談する。

**【岩本委員】**

- ・事情は理解しているが、中高一貫校としては残念な結果だと考える。数字だけで合否を決めるのでは教育にならない。生徒には大きく伸びる要素があることも考えてほしい。地域と結びつきの強い学校であり、いかに助けていくかという気持ちで取り組んでもらいたい。

**【山田委員】**

- ・生徒を伸ばしていくことは学校の義務であり、入学した生徒全員を伸ばしたいという思いで取り組んでいる。ご意見は承り前向きに議論していきたい。

**【高橋委員】**

- ・地域に貢献する人材を6年間の一貫教育で育てるという環境の中で残念なことだと考える。

**【徳橋委員】**

- ・県教委とも協議し検討していただいたうえで、改めて学校から説明をしていただくという方向で取り組んでいただければどうか。

**【山首委員】**

- ・高校では、「基礎学力が未定着で例えば掛け算すらできない生徒がいる、学習習慣が未熟な生徒に苦勞している」ということも聞いている。そのようなケースへの対応として重要となってくるため、土佐町では今教育支援センターを検討しているが継続的な支援を協議する中、中高連携には先生方どうしの連携が必要。入試も含めた連携体制の強化を。

**【徳橋委員】**

- ・先生方の連携はどのようなものか。

**【山田委員】**

- ・授業交流や部活動の合同練習、入学後の生徒についての情報交換などを

行っている。今後については、一日体験入学への参加や探究学習の発表会の参観を予定している。また、小・中・高で算数や数学、英語などで連携できないかと考えている。その中で、もっと深く学びたいという気持ちになって大学進学に向かうような進路指導につながれば、この地域にもプラスになるのではないかと考えている。

**【徳橋委員】**

- ・中高一貫体制がまだまだ弱い印象を受ける。

**【山田委員】**

- ・生活面における情報共有などの連携は進んでいるが学習面では交流授業にとどまっているなど、全体的にはまだまだ課題がある。何とかしたいと考え、まずは生徒数増による活性化を地域と協力しながら進めている。

**【古谷委員】**

- ・最近は嶺北高校の魅力化が進んでいることも感じており、連携中からの進学希望者も増えて人気が高まっているので、保護者としてうれしく思っている。地域外生の入学はもちろんだが、連携中との体制もさらに進めてもらいたい。

**【山下委員】**

- ・嶺北高校を卒業して地元企業などに就職する人は純粋で真面目なところが素晴らしいが、反面ここ一番の競争心がない。地域に一つしか高校がないので、山田や岡豊、高農など他校との競争による刺激を受けるようなことが何かできないかと思う。

**【山田委員】**

- ・企業や吾北分校など他の団体や学校との連携を活用するほか、積極的に外の広い世界に生徒を連れ出したいと考えている。海外研修の取り組みもその一つである。部活動などでも徐々に外に出る機会を増やしつつあるところである。

**【高石委員】**

- ・本年度の学力層分布はどのような特徴か。また、ICT機器（タブレット）は全生徒に行き渡っているか。

**【山田委員】**

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症にかかる臨時休業があり、例年よりも学力把握定着検査の実施が遅れたため、学力層は現在分析中である。
- ・タブレットについては、現状で全生徒には行き渡っていない。

**【総務連携部】**

- ・県や本山町との連携により今後は生徒1人につき1台のタブレットが確保される見通しがある一方で、年間リースによる更新などの課題もある。引き続き内閣府指定事業をはじめとする様々な事業を活用しながら充実した環境を整備していきたいと考えている。

**【高石委員】**

- ・ぜひ今後も推進を。

**【山首委員】**

- ・生徒理解について、個別の取り組みの重要性を強く感じている。先生方が多忙を極める中で、その子の強みを引き出すには、個別支援会議など、チーム支援のできる体制が重要。連携の強化には難しい面もあると思うが、まさにその連携を魅力としてほしい。

**【山下委員】**

- ・嶺北高校の魅力として留学のチャンスがあるというのも大きい。PRをすれば全国から生徒が集まるのではないか。

**【山首委員】**

- ・生徒たちの年齢で海外に行けることは素晴らしいことで、魅力である。

**【山田委員】**

- ・地域からの補助金の存在は大きい。

**【総務連携部】**

- ・体験入学のアンケートを見ても海外留学は最も人気がある。地域からの補助金など支援を活用していく。

**【高橋委員】**

- ・授業改善について、公開授業は地元の中学校にあわせて町教委にも案内を。

**【山田委員】**

- ・公開授業は2学期以降に予定しているので、町教委にも案内する。

**【岩本委員】**

- ・嶺北高校のサポートについては、魅力化の会をはじめ議会でも議員連盟をつくり取り組んでいる。未来創造協議会も発足したし、嶺親会、公営塾などの団体でも盛り上げている。先生方もそういう認識を持ってもらいたい。連携はとれているか。

**【山田委員】**

- ・定例会を行っている。関係性の整理もしていく。認識については、教職

員に伝えていく。

【岩本委員】

- ・関係が築けていないという話を耳にする。連携をよく深めて一層の充実を。

【山田委員】

- ・周知していく。

【徳橋委員】

- ・学校経営計画の「■4月6日提出」の意味は。

【山田委員】

- ・4月6日期限で県教委に提出済みという意味で、今後も10月、3月と、中間評価などを加筆しながら再提出していく。

○「嶺北探究」

【高石委員】

- ・嶺北高校の教育の中心となるものに魅力がなければならぬ。「嶺北探究」を嶺北高校の魅力の中心として進めていくべきと考える。内容はもちろんだが時間数の確保も重要。「嶺北探究」を週2時間確保するカリキュラムはできないか。時間数の確保についてはどのように検討しているか。

【総務連携部】

- ・様々に工夫して1・2年生で年31時間を確保している。基本は週1時間がベースだが、活動の流れに応じて連続2時間を設定し地域に出る日をつくるなど柔軟な取り組みを可能にすることで対応している。

【高石委員】

- ・小中学校の総合学習は70時間かけている。ある程度の時間を1・2年生のうちに確保し、「嶺北探究」を中心に教育の魅力化を進めてほしい。

【山首委員】

- ・「嶺北探究」の2年生のテーマが面白い。探究を通して地域に貢献するという意識で取り組むくらいの時間がほしい。そして企業などをつないで成果を見せてほしい。その意味ではこの時間数では足りない。

【岩本委員】

- ・取り組む生徒の声がかききたい。「嶺北探究」を通してどのような意識をもったか、どんなことをしたいかなど、アンケートで結果を見たい。

【山田委員】

- ・アンケートなどが実施できれば結果をまとめお知らせする。

**【高石委員】**

- ・5ヶ年計画にある「英語、探究学習、起業プログラム」の3つのツールをしっかりと実行していくことが魅力化と考える。初志貫徹で。

**【山下委員】**

- ・「有機のがっこう『土佐自然塾』」の卒業生は現在、全国で活躍し年2000万円の売り上げがある。特化していけるものを研究している人物が嶺北地域には少なからずいる。探究は自分から進んでやらないと意味がない。そのためには自分の情報量を増やす取り組みが必要。

**【徳橋委員】**

- ・探究学習の時間的な厳しさは確かに感じるが、ただちに倍の時間にすることもできないだろう。我々委員で情報をもらいながら検証し、学校に要望する、というような流れで取り組みたい。方法はいろいろあると思う。まだ3年間1サイクルまわってもいけないので、生徒の話も聞きながら改めて要請していきたい。節目節目での探究の検証をしていきたい。

**【山首委員】**

- ・先生の頑張りを知らないといけない。生徒の発表の場のことなど委員にも情報がほしい。この会もメインの会とサブの会を設けたり回数を充実させるなど考えていきたい、このメンバーのチーム性を高めて学校を応援していきたい。

**【高石委員】**

- ・その他の組織【嶺北高校魅力化推進協議会（各組織）、（一社）れいほく未来創造協議会、嶺親の会等】も方向性は同じなので、交流や意見交換も行いたい。

**【徳橋委員】**

- ・校長と相談し検討していきたい。

**【高橋委員】**

- ・探究学習によって学力が向上するという文科省の報告もあるので、取り組んでほしい。支援コンソーシアムについても、登録支援員もいるので、協力していきたい。

**【松岡委員】**

- ・「嶺北探究」は魅力。県外からも魅力を感じてもらえている。取り組みを進めてほしい。

学校からの説明事項2点についての委員による協議内容は以上。

最後に、徳橋委員より議事録の取り扱いについての確認があり、山田委員か

ら、事務局で起筆したものを各委員が査収したうえで学校ホームページ上に公開するという今後の流れを説明、会全体でその旨を共有した。

## 5 閉会行事

## 〈補足資料〉 嶺北高校の中高一貫教育について

嶺北高校では、同じ敷地に同居する本山町立嶺北中学校(同居型)、隣接する土佐町立土佐町中学校(連携型)と、それぞれ中高で「同居連携型中高一貫教育」を推進しており、授業交流や中高合同で行う学校行事などを通じた一貫教育に積極的に取り組んでいます。嶺北地域(本山町、土佐町)の中学校と嶺北高校が6年間を通じ連携することで、地域の特色に立脚した教育を行うとともに、学力の向上や個に応じた教育活動を推進することにより、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。

### 主な取り組み

- ・ 授業交流を生かした相互理解と授業改善
- ・ 授業改善につなげるための授業評価および公開授業
- ・ 家庭学習習慣の定着に向けた取り組み
- ・ 特別活動及び部活動の連携
- ・ 夢と希望を育むふるさと理解教育の推進
- ・ 中高一貫教育への理解促進

### (参考)

嶺北高校ホームページ <http://www.kochinet.ed.jp/reihoku-h/>